

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	令和2年度予算（当初）	
水産試験場運営費	28,899	千円
試験研究調査費	27,438	千円
（養殖場防疫・疾病対策事業）	（6,759）	
（琵琶湖生態系修復総合対策研究）	（1,854）	
（アユ資源・漁獲情報発信高度化研究）	（6,360）	
（魚類等増殖環境評価調査研究）	（824）	
（セタシジミ種苗生産放流高度化技術開発研究）	（1,351）	
（外来魚駆除対策研究）	（4,376）	
（湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究）	（2,985）	
（増養殖技術研究）	（304）	
（漁況予報調査研究）	（1,899）	
（漁場環境調査研究）	（726）	
養鱒事業費	21,960	千円
調査指導費	1,410	千円
（特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究）	（1,410）	
職員費	223,729	千円
計	303,436	千円

水産課計上分

事業名	令和2年度予算（当初）	
水産基盤整備事業費	4,986	千円
（ヨシ帯造成・砂地造成事務費）	（2,332）	
（セタシジミ種苗放流事業）	（2,654）	
資源管理体制高度化推進事業費	1,692	千円
（資源管理型漁業推進調査業務）	（1,692）	
ホンモロコ資源回復対策事業	981	千円
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費	1,680	千円
（効果調査）	（1,680）	
多様で豊かな湖づくり推進事業費	3,014	千円
（再生産回復調査研究）	（1,810）	
（セタシジミ資源保護増殖事業）	（1,204）	
計	12,353	千円

令和2年度主要事業一覧

事業名	事業概要
琵琶湖生態系修復総合対策研究	生物多様性に配慮しつつ、生態系の総合的修復技術を開発する。 ○水産資源動向モニタリング 沖合底魚資源の評価技術開発研究 沖合浮魚資源の評価技術開発研究 ○沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ホンモロコ繁殖要因の解明研究 淡水真珠生産技術向上開発研究
魚類等増殖環境評価調査研究	過去に実施された底質改善水域の環境調査と魚類増殖場としての評価を行った内湖等を利用した地域資源創出の可能性探索を行う。 ○底質改善による魚類等増殖環境改善効果調査 ○内湖等を利用した地域資源の創出研究
外来魚駆除対策研究	外来魚生息量推定精度の向上と駆除量減少要因の解明に取り組む

	<p>とともに、駆除量を増大させるための効率的な駆除技術の開発を行う。また、分布域を拡大しているチャンネルキャットフィッシュの現状把握と効率的駆除技術の開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外来魚の駆除量増大技術開発研究 ○新たな外来魚の拡散防止および効率的駆除技術開発研究
ホンモロコ資源回復対策事業*	<p>著しく減少したホンモロコ資源を回復させるためのふ化仔魚水田放流種苗用の天然親魚を生産し、種苗放流の効果を調査する。</p>
多様で豊かな湖づくり推進事業*	<p>産卵回帰したニゴロブナの産卵生態の把握と再生産回復技術の開発を行う。また、資源水準が低下しているセタシジミの種苗生産を行い、漁場に放流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○再生産回復調査研究 ○セタシジミ資源保護増殖事業
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業（効果調査）*	<p>赤野井湾を含む南湖水域で行われる水草除去や外来魚駆除、種苗放流による水産資源の回復、漁場の再生事業の効果を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南湖におけるホンモロコ回復状況の確認 ○赤野井湾での漁獲と再生産状況把握による有効性評価 ○赤野井湾での真珠母貝生産効果調査
養殖場防疫・疾病対策事業	<p>アユの養殖や河川放流で問題となっている疾病対策研究およびこれらの感染症の保菌検査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冷水病抗病性付与および冷水病菌除菌対策 ○冷水病ワクチンの開発研究 ○アユのエドワジエラ・イクタルリ感染症蔓延防止対策
アユ資源・漁獲情報発信高度化研究	<p>アユの初期加入状況が漁獲に及ぼす影響解明と科学計量魚探等を用いた精度の高い資源・漁獲動向予測技術を開発し、人工河川での迅速な増殖対策へ活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漁獲による資源消費過程の解明と減耗要因の分析 ○科学計量魚探を用いた資源・漁獲動向予測と沿岸水域での生息状況把握手法の開発、ふ化日組成把握の精度向上
セタシジミ種苗生産放流高度化技術開発研究	<p>セタシジミ種苗生産の効率向上のため、親貝の人工飼育技術を開発し、確実な肥育と成熟制御により採卵期間の延長と卵質の向上を図る。また、漁場再生や資源の下支えのため、漁場の湖流特性を利用した、広範囲への多様で効果的な資源添加技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親貝養成技術の確立 ○種苗生産効率の向上 ○多様な放流技術の確立
漁況予報調査研究	<p>琵琶湖のアユの資源水準を的確に把握するための産卵調査やヒウオ曳調査等と実施するとともに、その情報提供を行う。</p>
漁場環境調査	<p>琵琶湖の漁場環境を把握するための定点定期調査やプランクトンの異常発生、異常斃死事故等の調査を行う。</p>
特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究	<p>在来マス類(イワナ・アマゴ)資源の増殖・種苗化および地域特産種としての高成長系ビワマスの養殖業への普及を行うための研究。</p>

*：本課予算